

ヒトデータのための アノテーション設計 支援事業

顔画像・音声・生体信号などのヒトデータを用いた
研究・AI活用につながる学習データづくりを
設計段階から伴走します

PRESENTED BY



このようなヒトデータを扱っていませんか？

研究開発やAI活用において、右のような「ヒト」に関するデータの取り扱いや処理が必要となる場面が増えています。



顔画像・映像

カメラで取得した表情、視線、人物特定のための画像データなど



身体動作・姿勢

歩行分析、ジェスチャー、行動ログ、ボーン推定データなど



音声・発話

会話内容、声のトーン、感情分析のための波形データなど



生体信号

心拍、脳波、皮膚電位、体温などのバイタルデータ全般

① これらのように、人の状態・行動・反応に関わるデータをオルチェでは「ヒトデータ」と呼んでいます。

ヒトデータ活用、こんなところで止まっていますか？

貴重なデータを収集できても、
いざAI開発や研究へ活かそうとすると
右のような
「アノテーションの壁」
に直面するケースが多くあります。

アノテーションは、生データを研究や
AI・システム開発に使える学習データへ
変換するための工程。

この設計次第で研究・AI活用・ビジネス
化を進められるかが決まる、重要な工程
だからこそ、丁寧に進めていく必要があります。



ビジネスへの活かし方が 分からない

データは取得できているが、どのようにビジネスに活用すればよいかがわからない



設計の迷い

学習データ化のための要件定義や設計図が描けない
何を、どの程度の細かさ（粒度）でアノテーションすべきか判断できない



内製が難しい

アノテーション作業は膨大な手間がかかり、研究者や社員のリソースを圧迫する



取扱いの不安

個人情報やデリケートな生体データの扱い・セキュリティ管理に不安がある

オルチエのアノテーション設計支援

創業以来、ヒト理解を専門に研究・開発を担ってきたオルチエ。

だからこそ、ヒト理解に特化した領域で、

[お客様ごとの目的に合わせてアノテーションを設計し、](#)

開発まで一貫して関わっていくことができます。



観測項目・判断基準・粒度の整理

曖昧になりがちな人の主觀や判断基準を言語化し、データ定義として明確化します。



学習・検証に活きるデータ整備

独自のヒトデータ（合成データ）生成技術を用いて、アノテーション設計と整合した形で、効果的に学習データを拡張することができます。



プロジェクトへの伴走支援

アノテーション設計だけでなく、その後の開発工程までサポート可能です。

詳しくは、 資料をご請求ください

オルチェ独自の
アノテーション設計支援の考え方や、
具体的な事例についてのご紹介資料を
お送りします。

ご関心のある方は、
ぜひお気軽にお問い合わせください。



サービス紹介資料・事例集

PDF形式にてお送りいたします

✉ お問い合わせ・資料請求はこちら

info@ouché.co.jp

株式会社オルチェ人間情報技研
担当：事業開発部

